

教科【商業】

単元名
システム戦略

〔指導項目〕
(3)システム戦略
ア システム戦略
イ システム企画

1 単元の目標

(1) 情報システム戦略の意義と目的について理解するとともに、関連する技術を身に付ける。
(2) 業務改善に向けての課題を発見し、情報技術を活用した効率化に向けて解決策を考案する。
(3) 情報システムの利用者や発注者としての基礎知識について、主体的かつ協働的に取り組む。

2 単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
情報システム戦略の意義と目的について理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	業務改善に向けての課題を発見し、情報技術を活用した効率化に向けて解決策を考案している。	情報システムの利用者や発注者に必要な基礎知識について、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

3 指導と評価の計画（6時間）

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	備考（評価規準・評価方法）
第一次 （1時間）	1 情報システム戦略 情報システムが企業の経営に欠かせない重要な存在であることを理解する。 ・業務内容のシステム化について調べて、説明する。 ・企業で使われているシステムを整理して、情報システム戦略の意義を理解する。	態 知	○	・業務内容のシステム化について調べ、説明しようとしている。 観察 ・企業で使われているシステムを分類し、メリットを整理しながら情報システム戦略の意義を理解している。 ペーパーテスト（定期考査）
第二次 （2時間）	2 業務プロセス 業務の流れを可視化する手法と活用方法を理解する。 ・代表的なモデリング手法を整理し、各手法を取り扱う具体的事項を考察する。	知	○	・代表的なモデリング手法を整理し、事例について業務の流れを可視化することができる。 ペーパーテスト（定期考査） ワークシート

第三次 (3時間)	3 ソリューションビジネス	思 態	○	<ul style="list-style-type: none"> サービスの内容から解決されている課題を発見し、業務改善を提供できる顧客を考えている。
	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">ソリューションビジネスの事例を調査して解決されている課題を発見し、業務改善の方法を考案する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 事例を題材として、サービスの内容から解決されている課題を考察する。 グループで事例を発表し合い、自分の発言と他者の発言を区別しながら、業務改善の方法を提示する。 			<p style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">ワークシート</p> 評価シート
				<ul style="list-style-type: none"> ビジネスの具体例を挙げる活動に自分の考えに加え、他者の意見を調整しながら意欲的に取り組もうとしている。 <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">観察</p>

4 観点別学習状況の評価の進め方

【観点：思考・判断・表現】

(1) 評価の進め方（授業の流れを含む）

ア ワークシート

事例を題材として、サービスの内容から解決されている課題を発見する過程を記述できるワークシートを作成し、業務改善を提供できる具体的な顧客を考えているかを評価する。

イ 評価シート

授業者が把握しきれなかった生徒の取組の様子をより正確に把握するための補助的な材料とする。生徒が他者の発表を見て、どのように考えたかを評価できるシートを用いる。

(2) 評価の実施事例

ア 実施事例の概要

ワークシートに整理したサービスの内容から、解決されている課題を発見し、業務改善を提供できる顧客を考察した過程を評価する。自分の意見だけを対象とせず、他者のアイデアを取り入れながら発見できた顧客についても評価対象とし、具体性と数を基準に用いる。

Step 3：サービスが解決してる「課題」を考えよう。

Step 4：Step 3で考えた「課題」をメタモジ【3ページ目】に入力しよう。

メンバーが考えた「課題」で、参考にしたい内容をメモしよう。

Step 5：サービスを提供できる（されている）「顧客像」を考えよう。

グループ活動で生まれた「顧客像」をメモしよう。

イ 評価規準

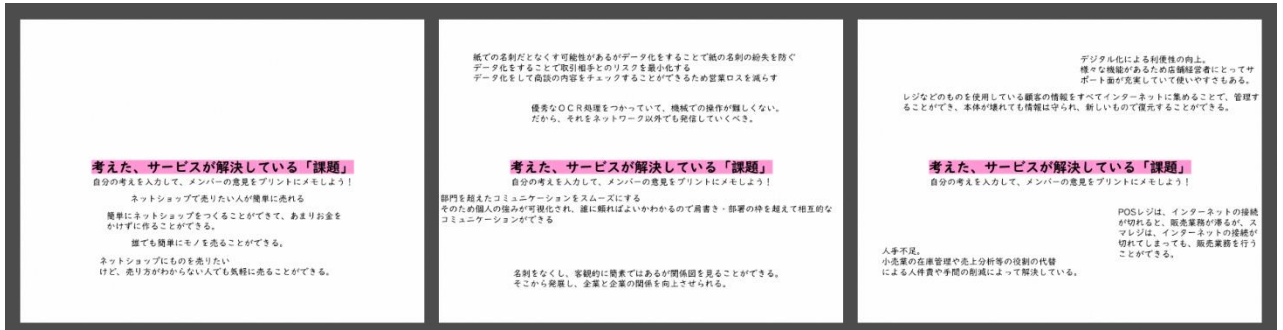
今回の授業で評価する観点を記入

評価	B	A	C
状況	おおむね満足できる	十分満足できる	努力を要する
思考・判断・表現	事例を調査して、サービス内容から解決されている課題を発見し、情報技術を活用して業務改善を提供できる顧客を考察している。	事例を調査して、サービス内容から解決される課題に対し、改善できる業務をより具体的に示して複数の顧客像を考察している。	事例の調査から、解決されている課題を発見できずに提案することができない。 【手だて】机間指導でヒントを与え、解決されている課題に気付かせる。

ウ 評価の考え方

○「おおむね満足できる」状況（B評価）

生徒が記入したワークシート Step 3（サービスが解決している「課題」を考えよう）の内容から、課題の発見ができたことを確認した。また、グループで共有した情報をワークシートのメモ欄に記載した生徒が、他者のアイデアを取り入れ発見できた内容について確認することができた。



[各グループの情報共有シート]

ワークシートの Step 3 の内容に加えて、Step 5（サービスを提供できる「顧客像」を考えよう）に該当する内容の記載を全員に確認できた。したがって、「おおむね満足できる」状況（B評価）の評価に必要な規準に到達したことが評価できた。

本時の振り返りで使用したグループメンバーを評価する「評価シート」を確認したところ、授業者が把握しきれなかった生徒の取組の様子を知ることができた。ワークシートや MetaMoJi から確認できる情報量や内容とは異なり、話し合いに必要な情報収集が不十分であったと評価されていた。

今回の評価には使用しなかったが、活用方法を模索したい。

6.話し合いに必要な情報収集ができていた？*				
	十分できていた	できていた	もう少し・・・	改善が必要
自分	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Aさん	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Bさん	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Cさん	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

[評価シート] の 1 項目

○「十分満足できる」状況（A評価）

「おおむね満足できる」状況（B評価）の評価に到達した生徒のワークシート Step 5（サービスを提供できる「顧客像」を考えよう）の内容がより具体的であり、更に複数示した生徒を「十分満足できる」状況（A評価）とした。しかしながら、ワークシートに記載できるスペースが小さく、“より具体的”という観点があいまいとなった。

○「努力を要する」状況（C評価）

該当者なし。